

法要を行う時期

仏教では、人が亡くなってからの49日間を「中陰」、49日目を「満中陰」と呼びます。中陰の間は、死者の魂が成仏せずにさまよっていると考えられており、故人のために追善供養を行います。

1. 法要のスケジュール

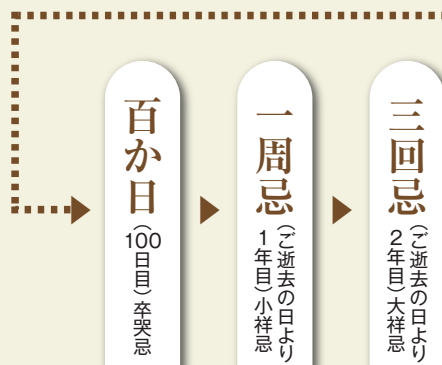


2. 初七日

亡くなった日から数えて7日目に行う法要です。現在では、葬儀の当日に済ませてしまうケースが増えています。葬儀当日に行わなかった場合は、親族を集めて法要を行い会食します。なお地域によって異なる場合もあります。

3. 四十九日(七七日法要・忌明け法要)

死者はあの世で7日ごとに7回、生前の罪状を裁く審判があるとされています。そのため、本来は四十九日まで7日ごとに法要を行います。近年は省略されることもあります。あの世でのすべての審判が終わった故人の魂は、ようやく成仏します。そこで「忌明け」の法要を行い、遺族はこれまでの日常生活に戻ります。最近では葬儀当日に初七日を済ませることが多いため、四十九日は最初の大きな法要といえるでしょう。



4. 年忌法要

定められた年の命日に行う追善供養のことです。亡くなって1年目を「一周忌」、2年目を「三回忌」、その後、七回忌(6年目)、十三回忌(12年目)、十七回忌(16年目)と、3と7の年度に行います。三十三回忌を「年忌明け」といって弔い上げになるのが一般的です。



日産労連の「葬儀共済」

「葬儀共済」とは、万一の際に、全国共通の葬儀の基本セットを低廉かつ明瞭な金額でご提供し、電話1本で全国の加盟葬儀社をご紹介させていただく制度です。

● 制度運営会社 (株)全国儀式サービスのホームページ

全国儀式サービス

検索

<http://www.gishiki.co.jp>

ユーザー名: gishiki

パスワード: members

● スマホ・携帯版ホームページもあります!

葬儀支援サービスの内容や全国の加盟葬儀社・斎場が検索できます。

葬儀のご手配、事前のご相談

24時間365日対応



0120-421-493

法要の準備

法要は親族や知人などを招くため、会場や案内状など、いろいろと準備が必要です。
忌明け法要(四十九日法要)の場合は、当日までに本位牌や納骨の準備などをおきます。
また、忌明けを目処に形見分けなども行います。



新盆の祀り方

忌明け後に初めて迎えるお盆のことで、盆提灯や精霊棚に故人の好きだったものを供えて供養します。
精霊棚は7月13日または8月13日に作り、飾り付けをし迎え火をします。親族や友人・知人を招き、僧侶の読経後、食事でもてなします。15日か16日に送り火をたいて、お盆の行事が終わります。
(地域によって内容や時期が異なります)



※新盆の時に使われる白紋天(しろもんてん)



日産労連の「葬儀共済」

「葬儀共済」とは、万一の際に、全国共通の葬儀の基本セットを低廉かつ明瞭な金額でご提供し、電話1本で全国の加盟葬儀社をご紹介させていただく制度です。

●制度運営会社 (株)全国儀式サービスのホームページ

全国儀式サービス

検索

<http://www.gishiki.co.jp>

ユーザー名: gishiki

パスワード: members

●スマホ・携帯版ホームページもあります!

葬儀支援サービスの内容や全国の加盟葬儀社・斎場が検索できます。

葬儀のご手配、事前のご相談

24時間365日対応



0120-421-493